

◆ 平成 27 年度 県立広島大学 学部・学科・研究科（専攻）等による FD 活動（教育改善）報告一覧

実施主体	コーディネータ	日時	実施場所	簡単な状況報告
人間文化学部 国際文化学科	船津 晶代, 柳川 順子	平成 27 年 9 月 15 日 (火) 13:00～15:00	1212 会議室	<p><b>テーマ</b> 組織的教育の実現に向けての情報交換会</p> <p><b>参加者</b> 教員・学生 26 名（うち紙面参加 10 名）、学生参観者 16 名</p> <p><b>簡単な状況報告</b> 多様な科目から成り立っている国際文化学科の教員が、相互に連携を取りながら、体系的な教育を行ってゆける体制作りを目指して、まずは各教員の相互理解から始めようと、それぞれの担当科目における基盤科目「論」の概要について情報を共有し、質疑応答を行った。夏期休業中での開催であったため、海外出張等で欠席せざるを得なかった教員も多かったが、書面による参加を含めると、全構成員 26 名がこの FD に関わった。なお、これに先立って、学科専門科目の履修モデルを策定している。事前に、すべての教員に「論」のコースカタログより「授業の目標」「授業の内容」「シラバス」等の記事の提供を求め、冊子にまとめた。当日はこの資料に基づいて、すべての参加教員が 1 人ずつ自身の「論」について説明を行い、それを踏まえて意見交換を行った。また、学生にも学科専門科目の相互関連性についての理解を促すため、1、2 年生の希望者には本 FD を公開した。更に、後期初めには、1 年生に対しては全員に、2 年生に対しては希望者に、履修モデルを文書で提示し、それぞれのモデルの内容について説明したところである。</p>
人間文化学部 国際文化学科	秋山 伸隆	平成 27 年 9 月 8 日 (火) 16:20～	1212 会議室	<p><b>テーマ</b> 大学基礎セミナーの教育方法に関する報告意見交換会</p> <p><b>参加者</b> 20 名（学科教員 19 名＋総合教育センター教員 1 名）</p> <p><b>簡単な状況報告</b> 全学共通教育科目・初年次導入「大学基礎セミナー」は、学科教員が組織的に取り組まなければならない科目である。そこで、本年度の担当教員を中心に 19 名の教員が集まり、担当教員全員がクラス別の総括（1 クラスの目標、2 内容（15 回分）、3 レポート課題と評価、4 成果と課題、5 その他）を行った後、「学生による授業評価・中間アンケート」の結果も踏まえて、自由な意見交換を行った。「中間アンケート」の結果を見ると、クラスごとに多少の差はあったものの、学生の満足度は高かった。独自に設定した質問項目「大学基礎セミナーを通じて大学生としての学修方法が少しずつ身についてきた」に対しては、約 80%の学生が肯定的な評価をしていた。授業外学修時間も他の講義科目に比べて高い値を示していた。このことは、担当教員が、それぞれの専門性を活かしながら、学生に学修の基本的なスキルや積極的な学修態度を身に付けさせるための工夫を凝らしていたことを裏付けるものであるといえる。来年度への課題としては、複数クラスの合同活動を導入することによって「大学基礎セミナー」を活性化すること、学生参加の FD を開催することなどが提案された。</p>
保健福祉学部 健康科学科	江島 洋介, 谷本 昌太	学科教員会議（科会） の定例開催に合わせて 11 回実施 平成 27 年 4 月 3 日 (金) ～平成 28 年 3 月 14 日 (月)	1215 会議室, 1239 教室	<p><b>テーマ</b> 健康科学科における学生支援活動の継続・質的向上</p> <p><b>参加者</b> 学科教員 14 名～18 名</p> <p><b>簡単な状況報告</b> 学科内で学生の履修状況等に関する情報の共有に努めるとともに、学生が抱える課題の早期発見、並びにそれら課題への早期対応につなげるための、チューター等によるチーム支援の在り方などについて全教員による意見交換を継続的に実施し、学科としての学生支援活動の質的向上を目指した。本活動の実施に当たっては、適宜、学生相談室の助言をいただいた。</p>
経営情報学部 経営情報学科	竹本 康彦, 市村 匠, 佐々木 宣介, 重安 哲也, 富田 哲治, 広谷 大助	毎回の授業、学科会議 (情報集約や意見交 換)等	各授業の実施 場所等	<p><b>テーマ</b> スマートタブレットによる出席管理システムを用いた要支援学生の早期発見と情報共有に関する取組み</p> <p><b>参加者</b> コーディネータ 2～6 名を含め経営情報学科教員が適宜参集</p> <p><b>簡単な状況報告</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本取組みでは、要支援学生の早期発見及び対応策における出席状況把握対象科目*1の出欠状況だけでなく、その他の経営情報学科提供科目の多くで学生の出欠状況、さらに遅刻状況をスマートタブレットによる出席管理システムを使用して収集した。</li> <li>・具体的に、スマートタブレットによる出席管理システムに基づき、コーディネータ 6 名により合計 20 科目*2の</li> </ul>

				<p>出欠・遅刻状況を収集した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・収集した出欠・遅刻状況から要支援学生の兆候を示す問題学生を抽出・把握し、当該学生の受講科目の複数において出欠・遅刻状況を情報交換し、その情報を整理した、</li> <li>・整理した情報については学科会議等において情報共有を図り、またチューターには詳細を提供し学生指導に役立たせてもらった。</li> </ul> <p>※1 要支援学生の早期発見及び対応策における出席状況把握対象科目（経営情報学科）  1年次：前期1科目，後期2科目      2年次：前期3科目，後期2科目  3年次：前期1科目，後期1科目    4年次：前期1科目，後期1科目</p> <p>※2 本取組みでのスマートタブレットによる出席管理システム運用科目数  1年次：前期2科目，後期1科目      2年次：前期2科目，後期4科目  3年次：前期6科目，後期5科目</p>																												
生命環境学部 生命科学科	五味 正志	平成 27 年 6 月 8 日(月) ～7 月 27 日(月)	大講義室ほか	<p><b>テーマ</b> 大学基礎セミナーの実施方法改善についての検討</p> <p><b>参加者数</b> 教員 34 名，学生 113 名</p> <p><b>簡単な状況報告</b> 各教員から出された課題に対して，各学生が調べたレポートを作成し，それに基づいて課題を出した教員を中心に1時間程度の討論を実施した。その後，討論の内容を踏まえて再度レポートを学生に提出させた。これを，期間の前半は食品資源科学コース，後半は応用生命科学コースの教員が担当し，2回繰り返した。そして，最後に学生にアンケートを実施することで効果の検証を行った。</p> <p>アンケートの結果，熱心に取り組んだと回答した学生はかなり高い割合となったが，時間配分，訪問先の研究室の決め方，議論の方法については少し低い評価となり，改善の必要が認められる。特に訪問する研究室については，チュータークラスの半数を単位として決定したことで，自分の行きたい研究室に訪問できなかった学生に不満があったことが自由記述欄から読み取れる。また，討論の課題内容や方法は，肯定と否定の意見が混在しており，各教員の対応にはかなり差があったことが伺えた。この方法は今年度から実施したため，各教員が内容を十分に理解していなかったことが原因の一つと考えられる。今後も実施方法等について改善を進めていく予定である。</p>																												
保健福祉学部 看護学科	黒田 寿美恵	右記のとおり	三原キャンパス内	<p><b>テーマ</b> ①アクティブ・ラーニングに関する情報交換  ②FD マザーマップ*を用いた看護学科教員の FD ニーズ調査と調査結果を用いた研修会の実施  *FD マザーマップ：看護系大学教員として備えるべき能力を行動レベルで示した体系的な見取り図，千葉大学看護実践教育指導センター開発</p> <p><b>参加者数および簡単な状況報告</b></p> <p>テーマ①</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>月日</th> <th>テーマ</th> <th>話題提供者</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>6/25</td> <td>I. 「比治山大学 AP 第 1 回セミナー アクティブ・ラーニングの基礎知識」の伝達講習 II. 成人看護方法論におけるチーム基盤型学習 (TBL) の取組事例</td> <td>准教授・黒田寿美恵</td> <td>18 名</td> </tr> <tr> <td>7/17</td> <td>「看護教育力UPセミナー 看護教員のための授業力 UP のポイント～学生の活動性を高める授業づくり～」の伝達講習</td> <td>准教授・山中道代</td> <td>8 名</td> </tr> <tr> <td>8/7</td> <td>iPad で操作する 3D 解剖アトラスを導入した解剖実習の試み</td> <td>教授・津森登志子</td> <td>11 名</td> </tr> <tr> <td>9/1</td> <td>協同学習を活用した授業の紹介</td> <td>助教・鴨下加代</td> <td>18 名</td> </tr> <tr> <td>10/21</td> <td>シミュレーション教育の基本的知識 シミュレーション教育の実例①老年看護方法論</td> <td>准教授・山中道代</td> <td>9 名</td> </tr> <tr> <td>11/17</td> <td>シミュレーション教育の実例②成人看護方法論</td> <td>准教授・黒田寿美恵 講師・今井多樹子</td> <td>12 名</td> </tr> </tbody> </table>	月日	テーマ	話題提供者	参加人数	6/25	I. 「比治山大学 AP 第 1 回セミナー アクティブ・ラーニングの基礎知識」の伝達講習 II. 成人看護方法論におけるチーム基盤型学習 (TBL) の取組事例	准教授・黒田寿美恵	18 名	7/17	「看護教育力UPセミナー 看護教員のための授業力 UP のポイント～学生の活動性を高める授業づくり～」の伝達講習	准教授・山中道代	8 名	8/7	iPad で操作する 3D 解剖アトラスを導入した解剖実習の試み	教授・津森登志子	11 名	9/1	協同学習を活用した授業の紹介	助教・鴨下加代	18 名	10/21	シミュレーション教育の基本的知識 シミュレーション教育の実例①老年看護方法論	准教授・山中道代	9 名	11/17	シミュレーション教育の実例②成人看護方法論	准教授・黒田寿美恵 講師・今井多樹子	12 名
月日	テーマ	話題提供者	参加人数																													
6/25	I. 「比治山大学 AP 第 1 回セミナー アクティブ・ラーニングの基礎知識」の伝達講習 II. 成人看護方法論におけるチーム基盤型学習 (TBL) の取組事例	准教授・黒田寿美恵	18 名																													
7/17	「看護教育力UPセミナー 看護教員のための授業力 UP のポイント～学生の活動性を高める授業づくり～」の伝達講習	准教授・山中道代	8 名																													
8/7	iPad で操作する 3D 解剖アトラスを導入した解剖実習の試み	教授・津森登志子	11 名																													
9/1	協同学習を活用した授業の紹介	助教・鴨下加代	18 名																													
10/21	シミュレーション教育の基本的知識 シミュレーション教育の実例①老年看護方法論	准教授・山中道代	9 名																													
11/17	シミュレーション教育の実例②成人看護方法論	准教授・黒田寿美恵 講師・今井多樹子	12 名																													

				<table border="1"> <tr> <td>12/16</td> <td>コミュニケーション能力向上に向けた演習の実例①ロールプレイ</td> <td>准教授・黒田寿美恵 助教・船橋真子</td> <td>14名</td> </tr> <tr> <td>2/9</td> <td>コミュニケーション能力向上に向けた演習の実例②模擬患者演習</td> <td>准教授・青井聡美 准教授・黒田寿美恵 助教・三宅由希子 助教・船橋真子</td> <td>11名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>精神看護学概論におけるグループワーク事例</td> <td>准教授・宮本奈美子</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3/9</td> <td>在宅看護論におけるアクティブ・ラーニングの取り組み —訪問看護師・教員・学生すべてが成長できる在宅看護実習—</td> <td>講師・岡田麻里</td> <td>11名</td> </tr> </table> <p>テーマ②</p> <p>ニーズ調査の結果、13名から回答があり、「教育者マインド」「カリキュラム編成」「授業運営（授業展開、評価とフィードバック）」「学生生活支援」「看護活動のイノベーション」「課題解決に向けた組織マネジメント」についてFDニーズがあることがわかった。今年度は、そのうち「カリキュラム編成」についてFD研修会を実施した。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>月日</th> <th>テーマ</th> <th>講師</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>8/25</td> <td>カリキュラム編成の考え方</td> <td>教授・松森直美</td> <td>24名</td> </tr> </tbody> </table> <p>テーマ1：話題提供者が、授業の目標や実際の進め方、学生の反応についてプレゼンテーションをした後、全体でディスカッションを行った。参加教員からの評価は、評価項目「教育に対するモチベーションを上げることに寄与したか?」「紹介された方法は参考になったか?」「紹介された方法を自分の授業に取り入れたいか?」「次年度も同様の研修会があったら参加したいか?」の肯定的評価の割合が9割以上であった。</p> <p>テーマ2：講義形式で行った。</p>	12/16	コミュニケーション能力向上に向けた演習の実例①ロールプレイ	准教授・黒田寿美恵 助教・船橋真子	14名	2/9	コミュニケーション能力向上に向けた演習の実例②模擬患者演習	准教授・青井聡美 准教授・黒田寿美恵 助教・三宅由希子 助教・船橋真子	11名		精神看護学概論におけるグループワーク事例	准教授・宮本奈美子		3/9	在宅看護論におけるアクティブ・ラーニングの取り組み —訪問看護師・教員・学生すべてが成長できる在宅看護実習—	講師・岡田麻里	11名	月日	テーマ	講師	参加人数	8/25	カリキュラム編成の考え方	教授・松森直美	24名
12/16	コミュニケーション能力向上に向けた演習の実例①ロールプレイ	准教授・黒田寿美恵 助教・船橋真子	14名																									
2/9	コミュニケーション能力向上に向けた演習の実例②模擬患者演習	准教授・青井聡美 准教授・黒田寿美恵 助教・三宅由希子 助教・船橋真子	11名																									
	精神看護学概論におけるグループワーク事例	准教授・宮本奈美子																										
3/9	在宅看護論におけるアクティブ・ラーニングの取り組み —訪問看護師・教員・学生すべてが成長できる在宅看護実習—	講師・岡田麻里	11名																									
月日	テーマ	講師	参加人数																									
8/25	カリキュラム編成の考え方	教授・松森直美	24名																									
保健福祉学部 看護学科	看護学科実習検討会担当教員	<p>①平成27年4月1日（水）9:00～</p> <p>②平成27年4月9日（木）13:00～</p> <p>③平成27年5月8日（金）9:15～</p> <p>④平成27年6月23日（火）9:15～</p> <p>⑤平成27年8月6日（木）14:40～</p> <p>⑥平成27年9月25日（金）14:40～</p> <p>⑦平成27年10月23日（金）16:20～</p> <p>⑧平成27年11月19日（木）16:20～</p> <p>⑨平成27年12月16日（水）13:00～</p> <p>⑩平成28年1月15日（金）14:40～</p> <p>⑪平成28年2月23日（火）16:20～</p> <p>⑫平成28年3月9日</p>	2416 会議室 (2/23のみ 2210 会議室)	<p>テーマ 看護学科 臨地実習教育の継続評価</p> <p>参加者数 ①12名②12名③11名④10名⑤12名⑥10名⑦12名⑧10名⑨10名⑩10名⑪11名⑫9名</p> <p>簡単な状況報告</p> <p>1) 臨地実習教育（コミュニケーションスキル自己評価）の継続評価</p> <p>平成25年8月より活用し継続評価を行っている臨地実習におけるコミュニケーションスケール自己評価表を引き続き、平成27年度も学生に活用を促した。</p> <p>平成27年度前期は4年次生が評価表を活用し、後期は1年次～3年次生が評価表を活用した。平成27年4月には実習指導担当者協議会を開催し、平成26年度の学年ごとの実習前後の自己評価の結果（評点と自由記載内容）をまとめた内容（指導者・スタッフとのコミュニケーション：自分の考えをまとめ、わかりやすく説明することが課題と捉えていた点など）について、結果の公表を行い、臨地実習教育にどのように活かすかを臨地実習指導者と共に議論した。また、一部を学会発表するとともに学会誌に報告した。平成27年度結果について、実習を経て経年的にコミュニケーション能力の自己評価が上昇している等、昨年と同様の結果が得られた。引き続き臨地実習教育へ活用方法や結果の公表について検討していきたい。</p> <p>2) 実習におけるインフルエンザ対応マニュアルの作成</p> <p>インフルエンザ流行時に臨地実習を行う領域を中心に、実習におけるインフルエンザ対応について議論し、インフルエンザ対応マニュアルを作成し、実習で活用した。</p>																								

		(水) 10:40~		
保健福祉学部 理学療法学科	武本秀徳	前期: 毎週水曜日 4 限 後期: 毎週水曜日 1 限	2416 室	<p><b>テーマ</b> ①理学療法学科学生の学内および学外（臨床実習）における学習支援, ②教員の教育法の向上・改善に関わる取り組み ③理学療法およびその関連領域の最近の動向について</p> <p><b>参加者数</b> 14 名</p> <p><b>簡単な状況報告</b></p> <p>①毎週開催されている学科会議にて、各学生の学習状況・生活の状況がチューターによって報告され、学科教員全体に共有されることを図っている。また本年度より、4 年生の国家試験対策が必修科目化されたことから、その進め方についてこの場で協議した。</p> <p>②教育手法に関連した各種研修会に参加した教員による伝達講習会、各教員による各種取り組みの紹介とその効果の検証を行った。</p> <p>③現在、国が推し進めている地域包括ケアシステム構築の方向性、新しい理学療法の一分野である産業理学療法についての紹介や討議を行った。以上は 1 回/月の割合で、学科会議と連ねて行った。学科特有の問題に関する議論で占められるため、対象組織は理学療法学科内とした。</p>
保健福祉学部 作業療法学科	山西 葉子	第 1 回 2015 年 4 月 15 日 (水) 第 2 回 2015 年 12 月 6 日 (日)	三原キャンパス 2 号館 2416 室	<p><b>テーマ</b> 作業療法学科教育の向上</p> <p><b>参加者数</b> 1 回目: 15 名 2 回目: 13 名</p> <p><b>簡単な状況報告</b> 学生の GPA の低下が著しく、学生の質にあわせた教育を再構築するために、学生の GPA の傾向からみえてくる課題を考え、今後の学生支援、教育のあり方を考えた。クラス内での学力差が大きくなっていることから、授業運営の難しさも浮き彫りになった。これまで同様早めのチューター面談と保護者連絡を行い、教科毎でも欠席状況を共有することとした。</p> <p>また、生活行為リハビリテーションという新たな算定基準が設定されたため、国の新制度に対応すべく、今後の教育内容の検討を行った。この基準が作業療法への求人数が増えたことも一要因として考えられた。生活行為向上マネジメントの評価方法はまだ改良が必要であり、臨床現場での状況を踏まえながら授業等で学生に伝えていくこととした。</p>
保健福祉学部 コミュニケーション障害学科	渡辺 眞澄	右記のとおり	1309 演習室, その他	<p><b>テーマ</b> 教員および実習指導者の研究・教育方法の共有と向上</p> <p><b>参加者数</b> 概ね 10~13 名</p> <p><b>簡単な状況報告</b></p> <p>2015. 5. 11 13:00-17:00 学外実習施設の言語聴覚士との意見交換会</p> <p>2015. 5. 26 12:15-13:00 学生の記銘方略 (矢守 麻奈 先生)</p> <p>2015. 7. 13 13:00-17:00 学外実習施設の言語聴覚士との意見交換会</p> <p>2015. 7. 22 12:15-13:00 「読み」のプロセスとその障害について (伊集院 睦雄 先生)</p> <p>2015. 10. 27 12:15-13:00 カナダ・ヴィクトリアでの言語聴覚療法 (坊岡 峰子 先生)</p> <p>2015. 12. 8 12:15-13:00 集団コミュニケーション療法の目的・効果 (文献レビュー) (中村 文 先生)</p> <p>2016. 1. 19 12:15-13:00 姿勢変化に伴う母音調音の変化 (吐師 道子 先生)</p> <p>2016. 1. 25 12:15-13:00 アクティブ・ラーニングの手法の一つである TBL (Team Based Learning) を評価・訓練立案演習に取り入れた効果の検討 (細川 淳嗣 先生)</p> <p>2016. 2. 17 12:15-13:00 模擬難聴とそれを支える聴覚心理実験 (入野俊夫 先生:和歌山大学システム工学部デザイン情報学科 教授)</p> <p>2016. 2. 18 11:30-13:00 岡山 SP (Simulated Patient) 研究会との意見交換会</p> <p>2016. 3. 24 12:15-13:00 広島県の通常学校に在籍する聴覚障害をもつ子どもの実態調査 (佐藤 紀代子 先</p>

				生) 学科教員が行っている研究の紹介と教員同士の意見交換，学外実習施設の言語聴覚士を交えた，実習指導における問題点，指導上の工夫点等についての意見交換，模擬患者(SP)演習による指導上の工夫点等についての意見交換，学外講師による最新の研究発表・学科教員との討議が行われ，教員の研究，教育への取り組みの質的向上が図られた。
保健福祉学部 人間福祉学科	細羽 竜也	5月12日(火)・13日(水)・19日(火)・20日(水)・26日(火)・27日(水)，7月7日(火)・14日(火)・24日(金)(2講義公開)，12月3日(木)(2講義・演習公開)・8日(火)・15日(火)，1月21日(木)・22日(金)・26日(火)(2講義公開)・27日(水) 計19講義・演習公開	三原キャンパス講義・演習室	<p>テーマ 社会福祉士・精神保健福祉士の養成教育の内容の充実を図る</p> <p>参加者数 公開授業実施教員数15人，公開授業聴講協力教員数(延べ人数)28人</p> <p>簡単な状況報告 今年度の学科の取り組みは，活動テーマに即して，授業のピアレビュー事業(授業公開)を継続実施することであった。今年度の目標は，昨年度よりも多くの教員の参加を促すことであった。</p> <p>(1) 公開授業実施教員数・公開授業聴講協力教員数 昨年度よりも多くの教員が公開授業の実施に協力し，人間福祉学科のFD活動の取り組みとして定着した観がある。また，聴講協力教員数も増えており，授業内容の相互確認の意識も高まったと感じられる。</p> <p>(2) ピアレビュー事業の評価について 公開された授業に参加した教員のミニッツペーパーには，各授業の肯定的な評価とともに，学生の積極性に触れた内容が多く，聴講された教員自身の勉強になったとのコメントがほとんどに記述されていた。公開授業の実施教員だけではなく，聴講教員にも実践的な教育技術の学修の場になっていると思われる。</p>